

古今集卷鏡

六

雜歌上

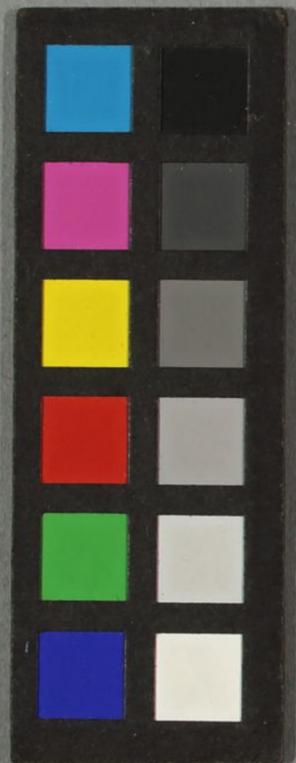
可下

雜詩

短歌

旋頭歌

誄諸歌



古今和歌集卷第十七巻

雑歌上

歌名

よみく



日くくしふさぞおくぬる天の門と後らふ子けいのまづく

○ワシガウへ、コレをカラ高ガツテクルロ コハナニテモ天ノ川ノ波ニ

船ノカイノキテアロカイ

思ふどち糸糸をるおろかか 中またまを 抱物ぞをる

○カウ心ノアフタドウレウチヨツテ居ルおハ 三 多ツテイヌルノガノコリ

オホイモノデサゴサルワイ

うきし紙をぬふつまむう衣袂ゆふたてをほしを



つらねしんやんさしむ言よりふるきんふきめしんものを

○コレハ白ノ綾ナレバナニモ色ガナウテ 奥^ウナイヤウニ思ハツヤレデカナゴザラウ

吾^ハトウカラキ根^ヘキツウ深^イ心^ザデ濃^ウ漆^テオイタ綾^デゴザルモノヲ

つそのうこのねまがみやづんもきざしものかごと
りよとらふりりゆるんぬあそふかうあうさま
はまのりきよぶらうびつひつらんとてよまてつらそ
しんま

ゆくのまみから

日^ハむらりやがーわく^ヲむむそのか^ニゆりは^シ里^ハふも^ハうき^ハらと

○此上のゆメグミハドコマデモユキワツテテウド日ノ光ノドリヤウナアレタ所

デモワケヘタナシニ照^シナサル^ハを^リナバ久^ク引^ケ籠^テゴザツテ心^ハ沙汰^モナカツタキ

^{五と}根^モは交^ハ結^ハ搦^ニ作^付テ^テ減^ニむ^カ咳^ニシ^タワイ^一ツ^目出^ルウ^ガザル

二條のきささの東^ノみ^ヤを^むあ^しを^る時

しあやわしんせふまうでけひる日よら

なりひのね

ス系やをーんれんもろくそハ神代のももおりひゆらん

○カヤウニ西子孫ノ教系氏ノ息所ノ東宮^ハ母^儀トシテ侍^レル^ノアル^ナレバ

ハ大原^ノ神^モカ^ヲ神^代ニ^天照^大神^ノハ^神へ^勅定^スアラ^セラ^レタ

ゆ^クモ^今日^コソ^思出^サセ^テ心^ハ満^スニ^思ハ^ステ^サラ^ウ ^{けうのね} ^{あけらし}

ユキのまひ雅とろよあゝ ようみ子のむひさ

天つ風やのうらひぢあまいとらふをとのけきかゝるうらむ

○鏡山ト云山ナラ人ノ新ガヨウウツルデアラウホドニ 欠^四シウナツタ此
身^五ハ年ガヨウタカト ドレヤタチヨウツテ見テユカウツ

けまある人の心もく大もとのらぬーがし

けり即しの新屋のそれみとせあふとこはる所ふる
アひつまつくをて何にもえうりてつてはゆるれど
あふひ^{ジロ}をりたをれみあふより^{キフナ用}をみそてををりて
ゆできこりほきてるまじあつげけてあはるうこ

おいぬももまゝぬれあつらひつゆくえよくしきく美める
○世中ノオラヒデ セヒトモガレ別モアルト云ナバ 年ヨウツテハ 世ニ眼モ
シレ子バイヨク君ニドウツをタイカナ 上句ニ二と次句ニそやんげし

かた

けり即しれ新屋

そ中ふさゝぬふものちくもづらちよもと 致く人の子れあ

○親ノ壽命ヲア、ドウツク年モト新フ子ノタニ 世中ニドラスグ道

レ又別ト云ナシヤウニシクイカナ よれまんの子しえハ親子むりてなまきりよん
人のあやとつちもと親心もま古語の例也。

寛重^{寛重}時きまのまは各けけ けり即しのむ子やみ

白雲のハきまりけりかつて心くもあひふまきか那

○オレガ頭ハマア雪ノイクモくツモツタヤウニツ白ニツツテカへ
たぐモキツイ年ノヨリヤウカナ

あるド序めうのまがひせをのこごよふあやまき
けり即しあやみ^{あや}あや^{あや}びあけはいでふつうやん

なふはげとちやみものくししりや衣あこけはゆふたぐつゆさる

○ハアコホガミチテ名サリナ 雑波^三 夕こく嶋ニ鶴ガトビサワイデ鳴ク

あそくがいつこのあよはゆるあふやましくよりこえさうで

きてよみてつらききき ち系とあがゆき

そは思ひおき門のぼふさくさのぼよのきりどいつさくたかきく

○拙者ハキ根ヲ思フテ忘レズニげとニテ^三 存子テネツタレバコソ^五 世

みナトニナリトモサタレ ち根ノ方カヲトテハ一向ハ存子モトサレヌ

サテクキツイカミカギリデゴザル

かきし

はし申さ

おきりはたうれをぬのぼね乃名ふくそとまるとまらぼりつと

○一 アノ言昨溪ノ松ソノ松ト云名ノをリニサ拙者ハトウカラ平根ヲ思待ヤシワ

なふとふやうれりきり時よめ

雑波があつる玉彦をかりそめのおまこぞ我はゆらぬぞあ

○雑波ガタノ風景サテク面白サニニバラクひカニ逗ヌシテ ち系

玉彦ヲ苅ルゆ士ニサオレハナラウヤウニ思ハレル

ゆひをれそくく人のぼふゆうでくくによみそ

はらうーとあき みよのだくち

ゆきへゴサツテモシソコゆ士ハ住ヨイ布テゴザルト云テキカスル必也居ハ

ニサワレヤルヤ住吉ハ左西ノ人ヲ忘レルト云忘草ガエテアんとミチヤホトニ

○京でテウテ名ノトホツテアル御琴下云布ヲ来テスバ風ガフケ浪ガ
立テ音ガスルスレヤハカラ琴ノ音ノ系ヲステ風ガサ^{ヒク}浮ノキヤワイ

布引の^ウレ^キと^ウち^ウ 左系行^ウ御^ウ長

こきち^ウい^ウき^ウの^ウあ^ウま^ウひ^ウら^ウひ^ウお^ウき^ウし^ウあ^ウう^ウれ^ウ乃^ウ後^ウう^ウど^ウか^ウら

○ハハラスバ水トテ走ルガテウド玉ヲ緒カラヨキチラスウチガハ玉ヲヒロ

ウテオイト借リニスソテワレガ身ノウヘカヤウニイハル後セウト存ズル

布引の^ウ後^ウの^ウも^ウや^ウに^ウそ^ウく^ウの^ウま^ウり^ウて^ウま^ウよ^ウみ^ウを

あ^ウゆ^ウふ^ウよ^ウを^ウ ね^ウり^ウひ^ウの^ウね^ウに

ぬき^ウみ^ウぐる^ウん^ウく^ウそ^ウら^ウし^ウい^ウお^ウの^ウま^ウね^ウく^ウも^ウち^ウう^ウ神^ウの^ウを^ウい^ウふ

○ハテアセイ袖^ウツ^ウレ^ウモ^ウセ^ウヌ^ウホ^ウ 玉カアヒダナニシゲウアチツテクル

カナコヒナニテモツナイテアル玉ヲ遊グ結ヲトイテハラクニシテハ
ノ上ノ方カラチラス人ガサアルサウナ

よ^ウれ^ウ後^ウと^ウん^ウそ^ウあ^ウ 兼^ウ均^ウは^ウ師^ウ

た^ウが^ウく^ウあ^ウふ^ウり^ウて^ウい^ウき^ウる^ウ布^ウを^ウと^ウや^ウり^ウ後^ウへ^ウく^ウる^ウね^ウど^ウも^ウま^ウあ^ウき

○アノヒツツテサラヒテアル布ハ誰カキルモノニスル布チヤカ ヲトヘカタカ
ラスルガイワステモソノミデアツテトリイヒ人モナイ

後^ウを^ウと^ウね^ウも^ウち^ウ布^ウを^ウて^ウま^ウく^ウる^ウ次^ウら^ウに^ウま^ウも^ウ母^ウト

ね^ウれ^ウら^ウん 外^ウへ^ウは^ウ師^ウ

後^ウの^ウを^ウの^ウあ^ウり^ウ系^ウを^ウり^ウた^ウて^ウ山^ウを^ウと^ウり^ウも^ウあ^ウり^ウて^ウま^ウい^ウと

○ハ後^ウの^ウ山^ウノ^ウ波^ウニ^ウま^ウう^ウ浪^ウト^ウ下^ウ白^ウイ^ウ系^ウチ^ウヤ^ウ 此^ウ系^ウヲ^ウウ^ウテ^ウタ^ウト^ウタ^ウメ^ウテ^ウ山^ウヲ^ウア

少時ノ衣ヲ織テ着ヤウニほつほイ糸ナヤ 出家ノ山ア牛ノ衣ニヨカロワサテ
新ニ門ノ向リて 湖ノ中ニゆてよめる

いせ

あちぬきぬきぬきしんもあき物とふふ心むめ布きしんむ

○夕チモヌイモセヌ衣ラ着タト云昔ノ仙人モ今ハ居モセヌニナラタニ
山姫ノアノヤウニ布ヲサラシナサレヤラ

朱雀院のみじ布引のほゆらんせむしとてふむ月乃
ふぬれ日おきしよしてきりふふがふんになす
よふせほひりふよめる たちづまのあがゆめ

ぬーなしてゆいせふ布成たなづふふこころりやうはうさ西し

○ヌシモナウテサラシテアルアノ布ヲオレガ物テハナケレド ヌシガナケレハ
オレガ心テタナバタニ借テ進セウカイ 今日ハセタチヤニ

あきのふろりおしをれたきとるてよめる

あつみ

あちたきつ湖のふゆみ奉つりて老ふりしむききとらほし

○タキツテ産ルアノ湖ノミナカミガ久ニウカワテ年ガヨツタサウチワイナ 皆白髪ガ
カリテ黒イ筋ハスチモナイ カウタハミナカミラ整ニシテチヤツエサウツエルカノ

あつド湖をよめる みつみ

風ノ中ニどとももあらぬらふらふら成て産るあらどとあらける

○雲ハ風ガフケハ流クヨフウツテテヲモラヤガ風ガフイテモ同じ所ラサラスニイウ

テモ日ギウニアルアノ白イ雲トスル^四昔カラ居ル^三汝ノ有テサゴザルワイ

田村の伊時ふ女をうねるがひやしては屏風の志

伊らんしりふ^二汝あちたりり^一とてあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

これを歌うてふよあしとてあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

けとばよあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

思ひをくぬのちのたきまねやあつてはそれどもあすの心

○入ノ思ヒヲヨラテ居リテ居リニル内ハ汝ノヤウニキカリテ物デゴザルニルガ

ハ繪ノ汝ハサヤウノ心内ノ汝ガヤカ致ニシテ落トスエスド子カラ音ガマ

屏風の汝なる花をよあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

咲きりし時よりあつちをよあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

○咲ツメタ時カラシテハウチツビイテ世中ハイツクモ吾チヤカシテ此花ハ
色ガジヤウヂウオニナシトチヤ

屏風の志りよとてあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

坂とてあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

かまへほとて山田のりねれにきておきくは後ま社のうきれば

○オレハ秋ガツライニヨツテ 一二 ハヤウニヒタクト後ヲ流シテ泣テサクラ

スワイ かりてふ雁とてあ^三あ^四あ^五あ^六あ^七あ^八あ^九あ^十

古今和歌集卷第十八巻終

雜歌下

影あしづ

よみ人しづ

世中ハナ小うひらゝしとくまのし乃濁ぞり六瀬ふる

○世中テハ何カイツモカラヌおギヤゾアを川ヨル昨日テ濁デアウタ

取ガヤ 今日ハモウ浅イ瀬元川ササヤスヤナデモカラヌ物ト云ハナイ

くよしもわじお方をみぢもかくちまのうらふ思ひみぢ

○モウ生テ居ルアヒダモ何ホドモアルイハオラ 海チル藻ノ乱レタヤウニ

ナゼニオレハミア此ヤウニドウカウトイワニ苦勞ニ思ウワツモウワツ
カノるナレヤ ドウデモカウデモヨイナチヤニ

厚れらゝ家の朝方ともどくのしありひつさせらゝの中のと

○一二 心ハレル時モナシニ常住思ゴノウキルト云トモナイハ世中ノウラサワイノ

小やたらひのねた

あつらゝとそとむれあふほしあれまづ歌うをぬあまう世中

○サウチヤト云テノガヒラモセヌ世中チヤニナヅトネトツアハウイ

世中ヤト云テナゲカル

かひのくしにゆるる時あまかりのかりきとふ

はるしき

をのけらぶら

あまかりのかりとわとをサ園は信んてひてまうのが
アハハらととらふさひさるしねれども中ふ例ふ

ウナツテサ ちやうくこの後ろく

よもくくしらば

ありましてよその紫にたたくちやうくこの後ろく

○昔^四ラ悉しウセフテアハハレアハレト云クビゴトニ海ガコボレルスレバツ

アハレアハレト云言ノ紫へ草ノ紫へオクヤウニオクちやうく海チヤワイ

そ中^一れうひもつしきもつをねふまづちやうくこの後ろく

○世中ノウイ^一モツライ^一モ云テキカセモセヌニマツ^一一番ニ知モノハ海チヤワイ

よの中^一ハちやうくつらうつともちやうくこの後ろく

○差^ニデアラウカ 正^ニ正^ニノちやうくデアラウカ 正^ニ正^ニノちやうくデアラウカ 正^ニ正^ニノちやうくデアラウカ 正^ニ正^ニノちやうくデアラウカ

よの中にびびりもあつておありとちやうくこの後ろく

○世中ニド^ニドコニ我ガアルゾ人ト云モノハ昨日死ナウモシレヌガ明日ニモ死マ

バチキニ埋^ニカ焼カシテシ^ニハバ 此^ニガハアツテモナイちやうくソレセフテ

スレバ^四アハレトイウカ アミウイトイウカ サテモく人ノ身ハハカナイちやうく

山里^一ハりのびびりもあつておありとちやうくこの後ろく

○山中ハ物ノサビニイ^一コソワルケソレデモ世中ノウイ^一ノヨリハミデ佳^一ガガルワイ

これらのみと

ふちやうのもちびびりもあつておありとちやうくこの後ろく

○雲ノフダン柳^一ハヤウナ高山ノ峰^一デサヘスハカウシテ住^一テトホル世中^一デチガガルワイ

ゆるのゆきのみち

あふりひききしてゆくの中はほのささげなればーくめる

○コレ世間ノ元知テ居ラルレデモアラウガモシ知ラシラズバ今テワガテキカスヲ

マテナリ氏 此世ヲバ早ウステサツシヤレテウド風が吹テ浪ノサワガシウキリニ

ウチヨセテクル荒イ海バヤウチ世申テ アンドウモ落付マアンドノナラヌヤ

ウスチヤヅヤ 。子秋云。下白風吹て。ほのささげなれば。くめる。と。り。や。さ。る。

そせしん

づぐくふうせとばいしむんそ押おもひもききぶづられ

○世ヲステドコニサ住ウヅタトヒヤニスナリ氏山ニスナリ氏 ヤウハリ

心ハサマヨウデアアラウトタル、ワイ

よみ人ーらん

そ中ハひうーよりやうかりらむあふひらのあふねねるの

○ヨノ中ハ昔カラハをリニウイ世中デアウタカ 但シ又オレガオヒトリノタメ

ニハヤウニウイ世中ニナウタノカ 。子秋云。ニの白ヤ。い。い。や。の。こ。ろ。り。

よのねうたひいしよのよふとやあるうれものあふゆーらむ

○セケシノ人カ 四 アナウヤトニテ 一 世中ヲ ニ イトウテ 三 住テ 四 住山ノ草木チヤト

テヤラ 五 ウイト云名ノ知花ガ 五 け山へ咲タ

みーゆのぶ乃あらしこふ花もぐなまのうき何れかそれふせむ

○吉野山ハズイブン流イ山チヤガオレガゾミニハマダフ吉野山ノアチラニ

家ガホシイモノチヤ世ノ中ノウイ時ノヒツコミドコロニセウニ

よふゆきをいづこころとすされみどりけ 雲の如き^{ほろ}をふらりしてむ

○世るニカウシテ居レバ 次ガニウイツライチバカリマシテクルニ一日モ早ウ

吉野ノ雜木ナクオクヘヒツコモラウグ ヤレクイヤナ世ノ中ヤ

いづれしむをいの中ふそぬばなよのう現ゆれすこざん

○ドノヤウナ源イ山中ニスダナラ 世るノウイチガキコテコメデアラウウ

まててうやうふいんちの中とてふは皆とて思のたちたれくふのよ

あしゆきさの中をのくまこしん 雲窟の内をのふは行しん

わー^{ひき}の心のまかくかたれまむうき世中ハ行るかひもなう

○山ノオクヘトコ^{オミク}テナリヒカクレウグ けヤウナウイ世中ニ住テ居ルセシモナイ

よの中れきくふあまぬあく山乃のふあれしゆきやまきま

○世中ノウイチニテキ、ニタモウドコメナリヒ 四キグレニ奥山^{カン}（隠レウカシラヌ ^{ヤキ}

あましむじまきさあ こゝのへのよしぬ

そのうきえんしぬらほへりむふハ思ふ人アそやぞしるのら

○世ノ中ノウイチラアスモウモセス山中ヘハイツテ住ウト思フニハドウモ

スステラレヌカアウテツレニサツナガレルワイ

山のあしりのものくはるがしき

元河内新垣

よはそくくふよつくふよそもねやうね所ハいづちちゆくし

○山坊松モ山ニオスマヒチヤガ ツウタイ世ガウイトエテステクシマウテ山ヘハイツ

夕人が 山ニスデモツレテモニダヤツハリウイ時ニハドチヘイクイヂヤ^{らん}リマセヌ

おまひりつめいしきねきこころてしよめく

今きふはちひづし心ねまのうねやーまがさよこひあや

○け子ハニア イマサラナゼニ生ヒテキターヤラ 何ニウケテモハヤウニ
ウイするオホイ世チヤトハヒラヌカヤイ

影あしん

うみ人あしん

よにぬれバその葉ちげききき作のうきやーにききどろく

○世ニアレバナシノカイト人ニイウ、三ウイするライハル、一ガ多ウテサ其
夜ゴトニうらひを 注キマス

あしもゆいばあふもあぬ休のよのほふあふはうぬぞら

○ワハホテモナシ葉デモナイ竹ノヤウデトチラモツカヌおニナルデアノウヤウニセハル、

うんのかくくあうのこねくしあふ

こががううたよのまうし歌きう人乃たあきうあしか

○オシラナ身ハツチ^ニサテモウイ世中カカト歌イテソニテ人るニテ世
中カ悲シウ思フテヤラレルがハヤウニ世中ノウイノハ 我オカラノイテユア
人ハツヤウニモアレ^下ニトウニテ人るニマテカチウ思フテヤラレ、^一ヤラ

あまのお小ねがされて作りあふ

たひのね

あひきやあまのうれふあうてあまの縄とぎいまりをむ

○まイ井ナカ別ヒテ来テ居テハヤウニオチブレテ 穢作たノスルニゴトラニアセウトハ
思フ多カイ思ヒモヨラナダチヤ ○お秋ニまはときハ縄とぎハ綱とぎハ綱縄約縄とぎとせく
おイハまきたるをなぐり、うすりまきとひり

出ヌーゾイ 初るハ四のふれなごころの下ふろつてそるべーまてお

うてとあひまふれなごころあふハふれなごころハ官ととふれハ
つぎくふれりおつてまふれりしうふれればおつてまふれり

わててぬ命まらまのやどいりりぬまぶく思をびもぐな
○イウマデモ生テ居ル下デハナイ オツケ死ヌルヲ待ツワヅカノ間チヤニセメテ

そるナリトモドウグハヤウニツライ若方ノオホウナイヤウニタイモノチヤ
みそのまのなちふれりくとみやつ之ほろまろいんそ
とまてはろふれり みやちのまろい

ほくそ^ほのふのふふれりぞろろそのみやまのほとこいつ
○筑波山ノキツウ^下テアルヤウニ^下クマ^下泳イ春宮ノ出薩ヲ^上ナガラドウグト

お^三な^三てハヒタスラ其^三所^三を^三ラサオタイチニスル 游材上の句の流

ハナリノヨウツク人ノ
あつりける人のふれりて款くとるてら
かゝのふれりともうくまらびもろいんとおいてよある

ほろふれりやぶ

あつりける人もふれりてくちら物思ひはし

○日ノ光^三ノアタラヌ谷^三デハ 春モヨウノ子^三テ 花^三ノサク^三トモナケレバ 其^三代^三リニ

又 早ウ花^三ガキツテ惜^三イ思^三ヒモナイヤウナモノテ オレ^三ガヤウニ^三ナカラ花^三モサカヌ
身^三ハ人^三ノ今^三夜^三ノヤウナ款^三キモナケレバ ケツクコレモミシカヤ

かろふれりてあふ七條中宮とせほろりまろい返り
ふれりてまろい

伊勢

いさめは中ふあひる里うねびうりそのぞねむげしあ

○此里六月ノ中ニエテアルトキニズル桂ノ里デゴガリマスレバヒタスラアチ極ノ

先ッラサ粒ニハ波ニセウト存ジマスルワタニハ名をばばたきまふし

まのこーさごがらものまけふまかりりる時ふらぬのをれ

むけきむしこりやいひちちれあまきふあかーふ

やかりわうきてあやまきでるざりれバキー々々

なりののねた

今ぞあゝろろーねりのとくまのむ里をぶうまんとぶうりりらと

○人ヲマツハナニギナ物ヂヤト云コヲ 今日サ始テ知リマシタ コニチバソウタイ

ミヲ待テ居ル所ハバサタラセズニ早ウイテヤルキコデゴガルワイノ

ともあうれみこのちやふまかりうよひくは^{親王}がらあ

ろして小やしくりふあゆらに^{ナリヒラ}正月ふとやうりそ

とて函うりなつきに^{小や}むえの山れあもしぬりれバ言

いしうりそりあひてかの^{庭室}むらふまうりいり

てをうみらふつあていもあけくそか

つとまうできてようそおかりとめ

わされそちまうそぞあひひきやちうみ分てあをふむとハ

○你イ雪ヲフミワケテトホイ山里へ系ッテ君ニ清目ニカ、リマセウトハ

存ジニシタカイ存ジモヨリマセナダコテゴガリマスソチタへ内終リチサヒタ

コヲフトワステハコレハア及テハナカツタカトサ存ジマスル

尾ニナリヤツタヅイ 浦をんぶきもあまふりづまのあそん
 くらぞとくをりてあそたさるるひづりてふにんを
 ほくしきそものるるひづりてふにんをその方
 のしきあのみふいあひはひをよとままふにんを
 まぬまのほららふきもあまふりづまのあそん
 今さふふきもあまふりづまのあそんして門をりて
 ○子供ヨアレ業内カアル カリニテヤレ 今ニナリマニテウめ下サレサウナ四方ハ
 見えガゴガラヌ け方内ハイタモシゲツタ降デトゲテ門ヲサシテゴガルニ
 ヨツテアケラセヌトニテイナセヨ けさたの垣のともふいあひ別ぢうん
 友あらのえーうゆうでさざりるるゆふすまて

つういーき

こつ

ふのけりふあふさのまのうねまのうきこあれや根と絶てこぬ
 ○上 ナゾはガヲフソクニ思ハスガゴガルカニテ 近ハトニト打絶テ由ガ
 ゴガラヌケニカラヌオミカキリデゴガル ○ふ林玄は白根をとりつゝは上うき
うきまの極小いふてまの心よあづい
 人をとぞえーうゆうをりふらひーきれはまあ
 あひいーあふらひてーあふぞやーかじさ
 月をすてーゆきやーふりむきまよりほろろのめいむまりりり
 ○オウラミ出テゴガル 拙者モナカト持ナイチニトリマギレテ 存ジナガラヌシウ
 心外ニ由沙流ヲ波シタ 下 あオナガラ心ニ思フヤウニハナラヌ物デゴガルワイ
 身ハ我オナバドウナリト我心次オニナルハズデゴガルニ 心ニ思フヤウニナラヌノハ

きりぎりき	今ハおふ	ちうけれバ	まハ産子
たなごうも	なうつき	おきそり	秋ハあに
神とか	あハおま	せそり	かろし
カミ	つりね	あろ	いつのむつ
るりより	こね	こ	おいのび
ヨケイニナカレバ	カハ	と	おの
やよりれ	な	ね	ろふ
か	る	お	さす
し	こ	あ	か
を	こ	あ	か
う	お	ま	お

くきりもが 夫がハあ代を ううえつてんむ

やよきまづ今のせれふ物のまきとよけいともうけともいふ
 こまじよきいと餘計なごの字まうともは名あれどはあいじ
 右まあまし竹枝より佛を石秋の夜と都もまじよきいとよ
 とやと畧きるんげやよりまを 弥過ままのいひがごとくおの
 こまじよきいとまわぬ又おはふまきるとあまいもれど
 夫が代ふりまほのいもいこあられらるとあひひけるな

○カヤウナアリガタイ君ハ世ニアウ時モアルモフヲ 今ニテハタバヒタスラ
 ウツモレテ居ルトバツカリ必フターヨアハウナカナ

そのまじよ

げて海をこきりたりおのこころをいづる海をいづる海は

秋の月、躬恒

秋の月、躬恒

むつじもききつらきうふあけぬりいづる秋のせーよよハ

○ムツゴトモマダ皆マデエエハヌノニハヤ夜ガアケル極子チヤ 秋ノ夜ノキイ

ト云ハドコガキイヅ

傍正遍昭

秋のせふらまゆきなてゝ女所をあるかーかまーおも部とくき

○秋ノ世ニアノヤウニ女は花が大ゼイチヤラクラト云テ居ルガア、ヤカ

マシヤアノヤウニ花ヤカナモ一サカリノワツカノるノチヤ オツ、ケシボテス若

シイ物ニテレラバシラスニア、

よみ人あしげ

秋のれはせぶふたつとをみまーいつものくはまでふるべき

○秋ニテハ世ヘニシヤラツイテ居ル女は花ヲ 来テスルハ 誰デモツメツテ

タムルツメツテス又者チイ つむと、花と摘をうみたり。

秋ののりてくもは女帝系花はまがくをこころくは

○旁ガハシタリクモツタリスバ 女帝花ノウツクシイ海ガサエチリカシタリスル

結句かきこのかきもほてよむし。 御材おぼせふらあし。

どとつてしをいひとまればあををうたけのきよの名よとてはれ

○女帝系ヲ花チヤト思フテ折ラトスバ 女即ト云名ハヒヨチ名デコソアレ

ドウモ女即ニ手ヲカケテ折ラレヌイ

御材おぼせふらあし

の段うねぞとすて雅ととくふま本はまのめかつひて中
小物とやして用ひてまふ遠おしくま。おふまれ文ふまその
用ひてやうと化の例とりと行合をてよく考へてとくべきこと。

寛政拾遺のふれり合はる 左京むひやな

秋風はほろびぬし花むらぶつてささてまきりぐをぬく

○友務が秋風テホコロビサウナ ソホコロビラツクリサセトミテキリぐスガ

わをまきとくむじらる日ぬりは家のうこより風のまさと
吹こーきりごとくしてそのまよりへふけてきーらる

まきりぐのやちやち

まきりぐのまのまよりぬをぬれば中垣よりぞ花はちりりけぬ

○マダ冬ナレドモウ明日春がタツ今日デ 近イ春ノトナリチヤニヨツ
テサカヒノ垣ノウヘカラサソノ春ノ花ガチツテクルワイ

影ーらび

よもいへーらび

いそのうとぬりおー恋の沖まびてとちほふおはつぞ祿をまつ

○いらデモ年久シウナレハ 神ノヤウニ性ガヘルモノチヤガオガ恋モ年久シウナツ

タユエ 性ガ入ッテ ソノ恋ガタッテオレハサ 夜ルモエ子ムラヌ

枕よりぬより恋のせえらまをむうとぬらぞとまぬふを家

○オレハ夜ル子テ居ルニ 枕ノ方カラモ跡ノ方カラモ 両方カラシキリニ恋ト云

鬼メガセメヨセテクルニヨツテ 跡へモヨラレズサキへモヨラレズドウモシヤウガ

ナサニ床ノ中ニサチツト起テ居ル まきりぐのやちやち

若菜ハ誰デモツム物ヂヤワサテツツテヌタイトハツメテヌタイトキヤゾエ
恙菜といふを老るるのふきを好まふと云ふはしむる言ひあり。

歌一らび

よみ人あはれ

思へどもねらうとぬれぬまかきしからぬ山乃あはじとあり人を

○ワシガムフ人ハキツイ性ワルナレバ 方へカ、リアルイテテウドモノ
廢ノドコノ山へモカシコノ山へモカ、ラヌアハナイヤウナモラデアラウト思へバ
思ヒナガラモヤツハリウトく、シイ心持ガスル

卒ノ貞文

まのゆれちるるもまはふのつまふとびとら娘のわらうとぞとらく

○一ニ オレハ女ヲ思フ思ヒガシケウテ 田 ホロくトサ泣ニス

上白いものゆれちるるのびくまげと妻恋のよとらまはふのつま
しつぎきたらふとらる。サけよまのそとらるにせらり。

きのよとら

秋のゆふ妻あまき麻の年とくしくるもどろが恋のかひよとぞとらく

○毎年く^ニ秋ノ野テ妻ノアリモセヌ麻ガ 恋カヒヨクトサナクガ アレハ
^{ドナゴ}ドウシタコチヤゾ 妻ニアフタラバコソ 恋ノカヒガアルトハ鳴ウコナレ 妻ノナイノニ
恋ノカヒヨト鳴ウズバナイニ ひとりとのてふをそのゆりなごとて切て
ちのこふとらへし。又泡のまの恋ニれまの恋ふとらとらつてのんやとら

みはれ

蝶のねれひくふくまはれなれあまきまはれねむきやあはれらぬ

○思フくと云ノモワレガリヲ思フナシヤあつこきとワレテヨイガいでやイヤモウ面白ウ
ナイ、と入心ハ大麻テサ、引手ガ多クバドウモ

あ紙思ふをちもぬひくやうが思ふのあを思ふぬ

○ワレラ思フテクレル人ヲコキカラワレカ思フテヤラヌ、ムタイカシテ、ワレガ
思フ人ガ、ワレラスツキリ思フテクレヌ

一ト ぬうやぢ

思ひりまをどふ思ひま、海さやひくいるかりりやま

○二ハカタ誰ゾオシラ思フ人ガアツタテアランニニニコキカラモ其人ヲ思フテヤ
バサヨカツタニコキカラ思ハナダテソノムタイガキテ、今オレガ思フ人カオシラ思フテ
クレヌア、アラソシヌヤノタイトニハナイコカイキツトアル、チヤワイノ

一本 よしんあぢ

ゆくゆうむくをど思ひよ、なまふとりのかこふをねもぬうね

○此テイナウトスル人ヲドウモ思フシカタガイニドウゾ今、近而隣、テタナリト
クサタラスレバヨイニエ、カウストキニハクサタラスル人モナイ、カナ

くまのあふそめ、くまねをどをあくふい、う、こ、な、り

○深ウ思フノモドウモねニハナラヌ、と入ラアイテクレバドノヤウニ深カツタ
心テモカハルギヤ、ね所汁、ふう、つ、をめて、池とを、こ、こ、り。

いとく、あ身、いまの、ゆるね、や、ぢ、ひ、づ、て、ふ、ま、ち、す、て、つ、

○人ニキラハル、ワレガ身ハ春ノ駒カシテ、テウド、ま、ノ、コ、ロ、約、ヲ、ぢ、何、ガ、テ、ラ、ニ、ハ
シテヤツテカ、ハ、ズ、ニ、オ、ク、ヤ、ウ、ニ、ワ、レ、ラ、ス、テ、子、カ、ラ、カ、ハ、ヌ

うづいそねいぞのやぶりのあすもあまのつせぬう

○ワシニスツレナイハ 一二 フルイ物ニシテニウチノ^{ニヤ}カニラヌ

上るはたの河のつげのこおすふゆすのこくとらふはらじ

さわ^さいらふまをんすのされは家のまがまねとさびいりぬ

○オレモ夏ノ月ハ^一イシコサウニ暑イニヨツテ独^ニ居ラスルト人^ニナニニテ^ニギラカ

シテオケル冬ニウテハヤウニそイ夜独^ニ居ルハ何トモ云ヤウガナイ

平中興

ささゆの今いづつうふるいぬれがあふくらでいつきぬり

○逢^ニのモモウ今^ニテハハツクナラニウテ力更テカスデナケバ

ガデケヌワイ ^ニの^ニの^ニあ^ニま^ニじ^ニと^ニり^ニふ^ニと^ニく^ニガ^ニり^ニふ^ニる^ニの^ニあ^ニま^ニじ^ニた^ニて

月のおきさすれ河のまそれ方のふなりまのまふかくらげ

たのあまじちらま

りあおのよしれ山よこのもならむと思ふあまらくふ

○吉野山ハ海外深山ヤケル日本吉野山ハオロカナ^ニタトヒソナガ唐天

竺^ニフ吉野山ノオクヘ^ニモツタト^ニエテモ我ハも^ニ今^ニニシテ^ニ改^ニニ^ニツテ^ニ居ヤウ

トハ思ハヌ ^ドコ^ニデ^ニモ^ニア^ニト^ニラ^ニタ^ニウ^ニテ^ニオ^ニツ^ニケ^ニテ^ニユ^ニカ^ニウ^ニト^ニサ^ニ思^ニフ

なまうき

さしあぬあまの山あまのや人のん成んてしとあまの

○何^ニゾ^ニ乳^ニニ^ニイ^ニラ^ニヌ^ニガ^ニミ^ニテ^ニワ^ニシ^ニを^ニる^ニウ^ニラ^ニ止^ニラ^ニト^ニ思^ニフ^ニナ^ニラ^ニコ^ニチ^ニノ^ニ心^ニヲ^ニト^ニツ

クリト^ニ見^ニ定^ニメ^ニテ^ニ上^ニデ^ニコ^ニツ^ニヤ^ニル^ニナ^ニラ^ニヤ^ニン^ニタ^ニガ^ニヨ^ニイ^ニヤ^ニノ^ニカ^ニツ^ニテ^ニアル^ニ山^ニノ^ニヤ^ニウ^ニナ

モノデコチク心バドウチヤヤラ知レハスイニカルクニウをさうラ止タノハア
アマリケシカラヌキモノツブレタノヤノ 人ハあてはるこのエムふん
ハ得ん。雄材結句ので。しと湯を流ハヨシおまらさの流ハヨシ。

伊勢

難波あゝあゝのいもつらあり今ハあをさうあたとへむ

○今迄ハらデモフルウナツテニウタヲバ 難波ノ名柄ノ格ニタトヘタチヤカ其
名柄ノ格モ 今又新シウ出来タチヤ スレヤハヤウニ人ニアカレテ四イモノニ
ナツテニウタワシガオラバモウ今デハ何ニタトエウツ 何ニモタヘル物モナイ

よみ人あゝあゝ

まう先ねまじなふぞハナキをくかやのみぞあてあれどあきくもほ

○オレハ後分^{ジツテイ}実^{カタ}神^{カタ}ニ堅^{カタ}ウオヲ持ッケレハ 何ニエイノガアルゾ ソレデモナン
ニモテノハナイ 世^{カク}ノ人ハ新^{カク}タ^{カヤ}萱^{カヤ}ノ乱^{カク}レタヤウニ乱^{カク}レテハウラツナ者モアレ
ドソレデモサノミワレイノモナイ スレヤ実^{カタ}神^{カタ}ニタシナムブンガソニギヤ

あきくせ

何うその名れあひものをーかきありてまどふいれひりかえ

○ナニソノ名ノタツノガラシカラウ 何ラスレバ名ガタツトシリナガラ迷^トフノハ
オレヒトリカ オレバカリチヤナイ皆サウチヤ

いもつらありをとおによそて人のいひれぞ

は御女のことハくそがいと二ねる男のくそをまひできさうはら
しと。或人のあつこのいもつらあり

○イワノ歎キガ山ノヤウニモツ名バヤ、尺スレバヒタモノツ臂杖ヲツイテツリ
ヲ傾^スケルヤウニナルワイ、本とらり来て出くして、遠まが杖とつくともてあそ
トふみ人あふん

なげきをばあはれつみてわーひまの山ろくひちくねるねる

○玄成ニは根ニ歎キバツカリガツモツテ、シウ其カヒモナイコトナルデアラウニ思ハル、
人らうらうらひなきを何とふるひりてわぶごうさうそわびかりん

○まをちニナウタヤウニジュツナイ玄ヲシテソシテイツア、ルト云時其モナイハサテ
モ難^アタナコトソアレ、楞^アとあそふるよとをりてあそてとらと。

ふひのすふお入ぬるみる月のまれてものあふ了終あわう那

○上 コノゴロハアサテモくワリナイ相思ヒヲスルコトカナ

とふとてとふればかつかくまねばあふひちあふさぎさうふ

○ドウシタガヨカラウカカウシタガヨカラウカト、レウケテ定メニクイコヲイワクニ思葉シ
テステ、ヨイレウケテラツ思ヒツイテ、サウチヤト定メテ、^ニをせリニスバ、又^カ一方ニサシ
ツカエガアリ、又^ニ思葉ヲカヘテシテスレバ、又^ニ一方ニ支ルコトガアリ、トカク世中
ノ^ハア、^四ドウモナラヌモノチヤ、^五一方ガヨレバ、一方ガワルウテ、^三の白れ下小
とありとのふとをさへてんねし、上おねるせて、け何をもよる
物也、彼杖^ヲ引^レ、^一とふのほふ古々、甚^ク思葉を引^レ、^二かぬねり、^三とて
その中れり、^四びとふをなげ、^五あふねを、^六を浅くなり、^七なれん
○世中ノウイ度ゴトニコレバ、ト思フテ、人がオヲナゲタナラ、死骸ガオビ
タ、ミウツモツテ、^一伊谷ガサ、^二浅ウナルデアラウワイ、^三は根ニウイコト多イ世中ナレバ

左京のむかし

よの中いふととあやうきあらふ恨らわれを

○人ゴトニ世ノ中ハウイおぢヤノト云テ恨ミルサウ数万ノ人ニ恨ミラ

ルノナレバ世中夜ハサゾヤノイワクニ思ウデアラウ

よみ人あふ

ほをちてオレいづつふ老ぬむと平のちもいむとどやき

○オレハア何ヲシテハヤウニ年ヨツタノヤラ 何ニモセズニ年バツカリヨツテ

身ニツモツタ齡ノ思フトコロガサハツカシイ

たきうぞ

オハもつろをばやももつはじつひわらうとあふ

○トテモ立オナドモエセバ 此オハモウも 相ニシテ居ルギヤガ セメテハ

心バカリナリ片 大切ニ持テ ステゴシヤウニナルマイグワレテシウハドノ

ヤウニナルフトスドケルヤウニサ

ちちや

あゝ君のとりふがオハありぬとどやきぬあふとみろ

○あオハ此ヤウニ年ヨツテトモカモ大ニチガウタケレ片 心バクゴラヌおデサ

ヤツハリ若イ時ニカハラヌワイ ちちやあふぬとどやきぬあふとみろ

あふ人あふ

うあのをみてれあのみろねばやまきあとのここのつあ

○梅ノ花ノ咲テチワテニウタヘナル実ハ酸イおぢヤガ オレハ梅ノ実チ

アレ網手デ船ヲ引テユクアノケレキガドウモイヘタぬデハナイ オモ
シロイコトヂヤワテア

ミダセラ成みやと小ヤアとし陸がまのまがれの時のよ門ぞをき

○コチノ人ヲ京ヘヤツテ 留守ヂウ イウモドラル、ヤラト 三四

待テ居レバサテモ急シイ

をくらぎにみみのこ 海ノくまバ船の住ふいざしそまき成

○アノ急侍ノニツノ小侍ガ人ナラ 京ヘノミヤゲニイザ和イトニテツレテイ

ナウモヲをくらぎにのをいをもつせまのをいそて急侍との小地を

みまきひひうさことまきせま急侍のあれたあふまきまき

○^{オササヒ}急侍^ヒ元^ヒソレ急侍トヤレ上サツシヤレ 急侍ノホカラオチルオハケシ

カラヌモノデ 雨ヨリモキツウヌレヌソエ

ゆがも川のをまきぐらむらむらにわらわをわらわの月をかり

○上イヤデハナイガ け月中ハドウモナラヌ

のちれどらどらひのぢりもあまばぐらむらむら

君とあきてわらわをどらむらむらにわらわの月をかり

○ドウエーガアウタニテモ オマヘヲオイテワレ外へ心ヲウウスコトデハナイモシラン

ナ心ヲワシガ持ッダラ アノホノ松山ノウヘラ浪ガユルデアラウツチヂハナ

イナヂヤサテ 木の松山とらむらむらにわらわの月をかり

さかぐらむらむら

小よらぎの破らちねしつとねつむ免ぢぬむらむらにわらわの月をかり

めいしう

ふひぐいとまやあもんがききもねくよとらとせむるまの中心

○甲斐が嶺子ヲハツキリトスエヌアノサヤノ中山ガヨコタワツテ

アルデツカヘテハツキリトスエヌアノサヤノ中山チヤ。小林云。バの句はふせ
ると。原はふ。一甲小
くせ。又一甲小とせむるまあ。い。つ。り。楽。ち。あ。て。ん。を。も。き。く。ね。し。之。れ。は。ま。の。日。し。
ま。の。も。細。ろ。う。の。べ。ら。ま。だ。の。二。つ。の。ゆ。を。西。一。か。ら。づ。き。保。一。古。ま。小。あ。を。と。ま。や。う。い。
ア。ま。び。く。せ。む。こ。せ。む。の。り。小。せ。り。い。
や。と。写。一。深。ま。る。ふ。い。あ。い。き。う。

甲斐が根を採りて心こく風をくちもがもやあいつてやむ

○峯ヲコシ山ヲコシテ甲斐カ根ヲ吹テユル風ヲドウゾ人ニシタイおぢヤナア

ソシタラ系へコトワケラシテヤラウニ けらも系よりりりける玉の目ま
いのみあふらうてし。おぢふあてうてし。上らうみらのくちうり

みやまのほろんきとひくもあめしとほしれ 節杖
の尻をかひひもよとらき。ふらまぼど。又まほも。上らうあ
およりてし。おぢふあてうてし。

いせしう

その浦よりこえりてあひひるほのまもねむもねむもねむもねむも

○上 ナルナラガルトモカタモニアナテアラウトイウヨニ原テハナシラセウ

なるとい。父母もい。ゆ。り。き。ま。ぬ。ま。の。み。れ。威。勢。を。と。り。よ。
そのものよりりりりり

尾系敏終終尾

らうやがもれやらの稚少ねよりけよやも色ハうりりり

あゝ^ニ 祿^ニ 本^ト 之^ニ 本^ニ 書^キ 入^レ 心^ヲ 滅^ス 今^ニ 別^ニ 書^ク 之^ヲ
き^テ 十^ノ 物^ノ 名^ヲ 記^ス

むぐー
ほーゆき

とぬくもふふひくらし^ハ けし^ハ びきの山のやぶむこびとふむあり

○ 杣人が材木ヲヒクサウチ^ニ ア^レ 又^ニ ガキウヒイテ 大ゼイ^ノ 人^ノ コエガスルワ

左^ニ 新^ニ 下^ニ 空^ニ 際^ニ 上^ニ

うらあん

かま^ア ても^も 何^も を^う ころ^の きて^も 足^む ころ^の や^し ぬ^く 物^を

○ 死^ニ 入^ル 魂^カ ヲ^ラ ラ^を 記^ス テ^モ 又^ニ カ^ハ ヲ^テ 来^テ モ 何^ラ 見^ヤ ウ^ゾ 何^モ 足^レ 物^ハ

ナイ ジブ^シ 死^骸 ハ^ヤ イ^テ シ^ウ テ^灰 ニ^ナ ヲ^ツ タ^モ ノ

を^う む^る 本^を 別^下

ら^も の^お も
ほーゆき

あ^い ぬ^く ち^ひ つ^を 記^ス ぐ^も の^あ ぬ^く げ^ふ の^も 足^む ころ^の や^し ぬ^く 物^を

○ ユ^ニ フ^カ タ^ニ ナ^レ バ^ア、今^の 日^ハ 又^ニ フ^ノ 人^ノ 来^タ ジ^ブ ン^ダ ヤ^ガ ト^衣 シ^ウ 足^フ テ^居 レ^バ

其人^ガ ヒ^ク ス^ラ 面^ヲ 記^ス エ^テ サ^テ モ^今 コ^ラ ア^ル ク^ヤ ウ^ニ エ^ル コ^ナ

あ^ま 利^欠 下^ト

あ^ま の^お み^や こ^ト ぬ^を の^く こ^ま ち

お^き け^の ち^と や^く ち^の も^か る^き け^の ち^と や^く ち^の も^か る^き け^の ち^と や^く ち^の も^か る^き

○ カ^ラ グ^ノ 熾^火 ヲ^居 テ^お 身^ヲ ヤ^ク ヨ^リ モ^カ ナ^シ ハ^京 ト^嶋 へ^ト 別^レ チ^ヤ ワ^イ

下白ハ、思ふ人乃、系より、清くして、よきまきまを、思入ゆく。
別ををりつて、さし。

かゝるも、清く、下

そ先どの、あそこ、 ちやちや

うねりを、ぶらぶら、めとの、ここの、ごも、ゆくの、おそろ、山の、ぬりに

○ 赤う、今、世、申、ウイ、子、ヲ、バ、ト、ト、ガ、レ、テ、ヨ、ラ、ニ、エ、テ、キ、ノ、深、イ、ウ、ラ、フ、キ、ト、
引、越、テ、ユ、キ、ス、 何、も、し、ハ、深、く、し、ら、ん、万、葉、ニ、小、さ、な、書、ハ、あ、を、
少、な、う、と、と、し、ら、ん、深、く、お、う、そ、い、は、し、つ、流、き、り、け、ら、の、す、サ、
す、の、じ、し、但、し、深、敷、く、栗、田、と、い、何、の、深、も、ま、き、地、名、う、と、は、
ら、ひ、て、野、ふ、し、ら、ん、の、深、お、天、を、の、深、う、ま、い、に、よ、り、そ、の、

うらよ、先、つ、お、う、し、され、た、の、深、も、ま、ま、あ、て、な、れ、バ、深、き、
お、み、う、ご、の、深、う、ふ、う、ま、れ、バ、深、敷、く、栗、田、と、う、し、深、き、と、は、
け、ら、の、深、の、を、け、み、う、ご、の、ま、め、の、ま、ま、あ、を、と、し、ら、ん、
こ、た、田、う、ま、い、の、ま、ま、あ、を、 桂、ふ、下

巻、廿、一

奥、山、の、春、の、根、木、の、ぎ、う、ま、の、下

う、ら、ん、と、う、ま、と、う、ら、ハ、大、井、川、あ、ぐ、り、う、ふ、あ、と、う、ざ、り、う、ら、ん

○ 今日、オ、レ、ガ、入、ラ、ズ、シ、ウ、思、フ、穴、大、井、川、流、ル、水、モ、オ、ト、ラ、ヌ、ク、ラ、井、チ、ヤ、ウ、イ

う、ら、ん、と、う、ま、と、う、ら、ハ、大、井、川、あ、ぐ、り、う、ふ、あ、と、う、ざ、り、う、ら、ん

○ 上、 ワ、シ、ハ、色、ニ、モ、詞、ニ、モ、出、サ、ス、ニ、心、デ、バ、ッ、カ、リ、マ、ア、ズ、シ、ウ、思、フ、テ、ク、ラ、ス

サテモシニキナコトカナ

カキナナナ

恋しくハあつてふを思へば家の下

つねうゝれその山うらひや川いづこへよこぐさめりしと

○モシ人カ問タナラ 上 ソニナ一ハドウヂヤカシラヌト云ヂヤゾ必我名ヲモ

ラスデハナイグ オツ小万葉のけあをどとんれたるやうにうたがり

訓もあがり万葉よあふハいさそを寸許キ餘名ワガナノラスナ告奈ナリて

あつたると同じきささせハのこましくつやよ同じ

けあはるゝあそのみうごのほろのうみふねくると

かゝし

うねへのとそまうきる

ふしうのまねのたまのまにぶんのまろづくコガあひ先やも
まきオナナ

あつてよそのそのみや秋をうてト

そとちつとむめのひよりわてみうごをうひたてまつりて

コガせこづくまきこひちりきさぶのふものあまひうひてあるーも

○コヨヒハ必出ガアラウトルニ夜チヤアレアクカニ蜘蛛ノスル一テサウチヤトス一

ガサキキヒサヘヨウニルワア 蜘蛛をささぶといハカニ蟹カニ小蟹チヒサで小まきと

源を父恋しとふたがねづけくむとなしむト

あゝく

道あゝばはくむもゆらゆらあえのあふあつてよまきナナ

○道ヲシツテ居ルナラ 住ノ江戸屋ニエテアルトイフモラウスル忘ヌラ
 ツミニテモユカウ ぬえ美草の多成るがごとくしてかくふぬ
 ふまじきふゆふん又あぢえぢとては集りも入るゝ死ふあ
 ぢど又ぢえれふみらふあぢとふふふふふふふふふふふふふふふ
 右ふあさまで日さし〜ハコカク物あ〜さ〜さ〜

を鏡六の巻紙をりて

發 行 書 肆

江戸日本橋通二丁目
 同 日本橋通二丁目
 同 芝神明前
 同 日本橋通二丁目
 同 淺草茅町二丁目
 同 兩國横山町三丁目
 大坂心齋橋通北久太郎町
 同 心齋橋通安土町
 同 心齋橋通博勞町
 同 心齋橋通安堂寺町
 京都二條通衣之棚角
 同 歎屋町通姉小路上ル
 尾州名古屋本町通七丁目

須原屋茂兵衛
 山城屋佐兵衛
 岡田屋嘉七
 須原屋新兵衛
 須原屋伊八
 和泉屋金右衛門
 河内屋喜兵衛
 河内屋和助
 河内屋茂兵衛
 秋田屋太右衛門
 風月庄左衛門
 俵屋清兵衛
 永樂屋東四郎

